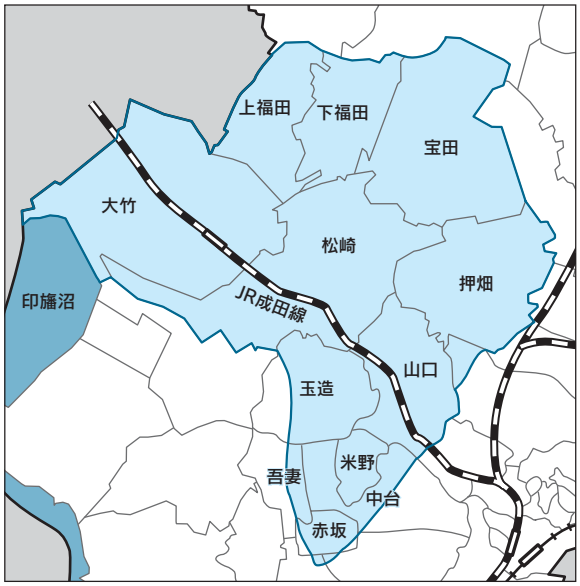
ふるさとの歩み 第3回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。

八生村　現代に受け継がれる教育への情熱



村の設立と産業

八生村は明治22(1889)年、松崎村・大竹村・宝田村・山口村・押畑村・上福田村・下福田村・公津新田の8カ村が合併し誕生。村役場は松崎(まんざき)にあり、その庁舎は中郷村芦田にあった家屋を移築して造られました。明治24(1891)年の戸数は634戸で、人口は3,227人。産業は農業が中心で、農家に現金収入をもたらした副業の養蚕業は下福田・上福田・大竹・松崎・宝田で盛んであり、村内に2つの養蚕組合(繭の生産・流通の過程で共同作業を行う組織)が設立されていました。瓜・しょうが・大根・なす・ねぎなどの生産も盛んであり、明治41(1908)年には松崎区民により園芸試験場の誘致が県知事に請願されています。

村民・有志の熱意に支えられ

県立成田西陵高校は、明治39(1906)年、八生高等小学校に付設された八生実業補習学校として誕生。当時、北総には小御門農学校などがあったため、新たな農学校の設立は困難を極めました。また、設立後も同校は学校制度の改革・高校再編計画などにより、たびたび廃校の危機を迎え、学校存続のための苦難の歴史が繰り返されてきました。しかし、その都度地元の有志や後援会などの粘り強い反対運動によって危機を乗り越え、今でも「八生の農学校」として、地域の人々から愛されています。

また、村内では、地元青年団員が東奔西走して本を収集して創設された八生村図書館が、大正12(1923)年、八生尋常小学校内に開館しています。村費と寄付で運営されたこの図書館では、図書館報の各戸配布、巡回文庫の創設などの積極的な活動が行われ、翌年、成績優良図書館として県知事から表彰されています。こうした取り組みは、成田西陵高校の歴史とともに、村民の教育に対する意識の高さを示しています。

中郷村芦田の民家を移築し、明治44(1911)年に建てられた八生村役場。場所は、現在の成田西陵高校グラウンド付近(「成田の歴史アルバム」より)

八生実業補習学校は、大正3(1914)年に八生農学校と改称された(「創立百周年記念誌 千葉県立成田西陵高等学校」より)

編集後記

昭和48年10月から始まった印旛郡市職員採用共同試験。その上級職採用試験が7月24日、酒々井町の東京学館高校で行われ、試験監督員としてお手伝いしてきました。成田市では、一般行政職・土木・建築・司書合わせて30人程度の募集に対し、1,126人の申し込みがありました。長引く不況の影響からか、公務員の人気はまだまだ高いようです。問題をみると、難しい…。今の自分では合格は無理かも!?高倍率の難関を突破して採用される優秀な職員の活躍が、今から楽しみです。

成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成23年8月15日号 No.1201　成田市のホームページ http://www.city.narita.chiba.jp

平成23年8月15日号／月2回　1日・15日発行／編集発行：成田市役所企画政策部広報課
〒286-8585 千葉県成田市花崎町760番地　電話0476-22-1111(大代表)

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす紙を使用しています。

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。